



夢はオリンピック!  
～勝田第三中学校ソフトボール部～



鋭いスライディング!

2000年のオリンピックでは日本のソフトボールチームが大活躍をしましたが、ひたちなか市でも活躍しているソフトボールチームがあります。

平成12年7月、茨城県中学校総体育大会で勝田第三中学校ソフトボール部が優勝し、8月に行われた関東大会へ出場するという快挙を成し遂げました。

現在は引退している元キャプテン・副キャプテンが、ソフトボール部について話してくれました。

当時の部員は27名。団結力があり、練習が終わっても仲のよいチームだそうです。練習について尋ねると、「厳しかったけれど、友達がたくさんできたし、やってて本当によかった」と笑顔で答えてくれました。顧問の川越先生は、「本当にまとまった良いチーム。厳しい練習にもみんながよくついてきてくれた」と生徒達のがんばりにうれしそうでした。

その後、1・2年生の練習を見学させてもらいました。キビキビとした動き、正確なスローイング、鋭いスライディングなど、茨城県を制したチームの風格を感じました。川越先生によれば、強くなる秘訣は「実戦を想定した練習の積み重ねと、ひとつひとつのプレーを大事にすること」と教えてくれました。

## ソフトボール豆知識

### ●ダブルベースとは?

ソフトボールは、塁間が短いため、1塁でのクロスプレーが多く、守備者と打者走者の接触が起こりやすく、衝突による大ケガをすることなどもあった。そのため、「セーフティーベース」の名称で1塁にダブルベースを置くルールが採用されるようになった。このベースは白色ベース部分をフェア地域に、オレンジ色ベース部分をファール地域に固定する。打者は投球を打った後3ストライクの落球(振り逃げ)で1塁に走る場合は、オレンジベースを走り抜け、守備者は白色ベースを使用する。ただし、いったん走者となり白色ベースに帰塁した後は、白色ベースのみを使用する。

### ●ウインドミル投法とは?

ウインドミルは、もっともポピュラーな投げ方で、風車のように腕を大きく1回転させ、その遠心力を利用して投げるため、大きなスピードを得ることができる。女子の国際的なトップレベルの投手では105km～110kmを超え、野球に置き換えると150kmを超えるスピード感を体感するとされている。

## 「やっぱり家族っていいな……」日本PTA会長賞受賞!



「うまく詩を書くことが出来ました」とうれしそうに話してくれたのは、勝田第三中学校の根本真由美さん。

どんなに作り笑顔をしても  
悩んでるってすぐわかる  
家族ってすごいな

日本PTA会長賞受賞作品

左の詩を作ったのは、勝田第三中学校三年生 根本真由美さん。

「たのしい子育て全国キャンペーン」第一回「家庭の風景～三行詩と写真大募集」コンテストで日本PTA会長賞を受賞しました。

真由美さんは中学校の選択科目の中で国語・現代文コースを受講していて、授業中に詩を作ったそうです。

この詩は実体験に基づくもの。「悩みがあってうつむいて家に帰ると家族が心配するので、笑顔で帰るためにはどうしたらいいのかを考えていました。結局はばれてしまいましたけど(笑)」とは親孝行の真由美さん。悩みは誰に相談するのかと尋ねると、「友達が多いです。でも悩みに気づいてくれた家族もありがたいです」と照れくさそうに話してくれました。

今後、この作品は上記キャンペーンの啓発活動やイベントで活用されていくということです。